

# 変革する社会の担い手として

総務省行政評価局政策評価課  
客観性担保評価推進室専門官

**駒崎 弘** KOMAZAKI Hiroshi

平成 19年 4月 総務省採用  
同 自治税務局企画課  
平成 19年 8月 茨城県総務部市町村課  
平成 20年 4月 同 総務部財政課  
平成 21年 4月 総務省人事・恩給局退職手当第一係  
平成 22年 7月 同 人事・恩給局退職手当審査係長  
平成 23年 7月 国家公務員制度改革推進本部事務局主査  
平成 25年 1月 内閣官房行政改革推進本部事務局局長  
平成 25年 6月 総務省行政管理局副管理官  
平成 27年 8月 内閣府情報公開・個人情報保護審査会事務局総務課課長補佐  
平成 29年 7月 総務省大臣官房企画課サイバーセキュリティ・情報化推進室  
課長補佐 併任 大臣官房秘書課働き方改革推進室室員  
平成 29年 8月 総務大臣政務官秘書官  
平成 30年 10月 総務省自治行政局地域政策課地域情報政策室課長補佐  
令和 元年 7月 現職



## 社会を、支える

Society5.0、グローバル化の進展、人生100年時代の到来。激動する時代にあわせて、人も社会も変わっていかねばなりません。このような時代こそ、国全体の将来ビジョンを描きつつ人々や地域が抱える問題の解決を図るとする「行政」の役割が、より一層重要になっていきます。そうした行政のあるべき姿をデザインし、根幹の制度を改め、行政が社会に提供する価値を創造していく。これが総務省のミッションです。

## 行政を、デザインする

係長時代、いくつかの法律を担当しました。今という「人生100年時代」に対応する人材戦略を議論した公務員制度改革。法治主義の根本ともいえるルールである行政通則法の見直し。制度設計の素案作りに始まり、有識者と議論を交わし、関係者の合意形成を図り、法律という形に残す仕事です。重要な国の仕組みを所管する組織にいるからこそ醍醐味を味わいました。それと同時に感じたのはルールづくりの難しさです。多様な意見をまとめ上

げて新しい制度を実現するには、行政官も社会の変化に敏感でなければなりません。

## 仕事が、つながる

そこで総務省では、多様で、つながりのあるキャリアパスが用意されています。例えば、テクノロジーが急激なスピードで進化するデジタル時代の中で、行政の姿も変容しつつあります。前職では、自治体のデジタル・ガバメントに携わり、最適な住民サービスのあり方を模索し、現在は、EBPM (Evidence-Based Policy Making) について、データ分析等のエビデンスに基づき政策を立案する諸外国の例を参考に、我が国の現状にあわせた取組を進めてきました。どちらもエキサイティングで、一筋縄ではいかないミッションです。大切なことは、現場の課題に向き合い、官民の様々な人々とつながり、世界の動きを学びながら、現実に機能する政策を生み出すこと。そして、これまでのキャリアで得られた経験を活かすことです。私の場合、上記の業務に当たって、それまで培った国の行政制度の知見、尊敬する政務官をお支えしながら省全体の施策を俯瞰した秘書官の経験、若手時代の自治体への赴任経験が役立ちました。

## 自分も、変わる

不確実な時代を生きる私たちにとって重要なことは、変化を受け止めて新たなチャンスに変えていくことだと思います。総務省では、他省庁、地方、海外に広がるフィールドに身を置くことで、特定の分野にとどまらず社会全体の改革を感じ取る感覚が磨かれるとともに、状況が一変しても柔軟に、しかし芯を持って仕事をやり抜く力が養われます。それは、政策の遂行に責任を持つ公務員にとって大切な要素と考えていますが、人間としての成長にもつながるはず。こんな偉そうなことを書いている私自身、実際は日々悩み、研鑽を積む毎日ですが、それだけ総務省は自分を成長させてくれる場だと感じています。行政と自分の未来をデザインする仕事に、総務省と一緒にチャレンジしてみませんか。



息子の成長を実感！

## はじめに

総務省は、文字どおり、「総」てを「務」める「省」と紹介されることもあります。今ひとつ分かりづらいついと思われる方も多いのではないのでしょうか。私の経歴を見ても、幅広い経験があるとの印象を受ける一方で、理念や哲学を感じにくいかもしれません。そんな皆様に、私なりの想いを伝えることができたから幸いです。

## 統計の役割と更なる利活用に向けて

統計とは、我が国の実態を明らかにするもので、私たちの課題や強みを写す鏡であり、政策を企画立案する上で必要不可欠な存在です。また、統計を利活用するユーザーは行政部門だけではなく、研究機関やシンクタンクなど多岐にわたります。正確かつ迅速に統計が作成されることが大事なのは言うまでもありませんが、作成された統計をどのように利活用していくのか、また、利活用の環境をどのように整備していくのかということも同様に重要です。

現職での私のミッションは、統計マイクロデータ(集計前の個別データ)の高度利用を更に進めてい

くことです。集計前の個別データを活用することで、例えば、集計されることにより埋没する地域や特定の属性を持つ集団の特性を明らかにすることが可能となります。具体的には、地域別のインバウンドの現状分析や企業の海外展開と企業成長に関する実証研究、生活習慣と死因との関連に関する検証など、新たな発見に向けた研究が進められており、こういった一つひとつが新たな時代を形成していくこととなります。このような高度利用は、制限なく認められている訳ではなく、統計法に基づく一定のルールが課されており、このルールをより良いものにするのも私たちの務めです。

## 総務省での可能性

統計に限った話ではなく、時代の変化やニーズに応じて、行政や社会全体をアップデートしていくことが総務省のミッションだと私は考えています。過去に所属した行政評価局では、施策や事業の担当府省と異なる立場で、様々な課題にアプローチすることができました。総務省は他にも様々な政策ツールを有しており、むしろ、あまねく課題にコミットし、よりよい未来づくりを担うことが求められています。

総務省として何ができるのか。幅広い政策ツールがある以上、これをどう活かすのかは私たち職員次

第であり、好奇心旺盛な方には非常に刺激的な職場だと思います。よりよい未来づくりに向け、皆様と一緒に仕事ができることを楽しみにしています。



ウィーンの国立歌劇場



# よりよい未来づくり

総務省政策統括官(統計基準担当)室統計企画管理官室  
高度利用専門官

**村田 誠英** MURATA Takahide

平成 20年 4月 総務省採用  
同 行政管理局管理官付  
平成 21年 4月 内閣官房副長官補付  
平成 23年 4月 内閣府地域主権戦略室  
平成 23年 8月 同 地域主権戦略室主査  
平成 25年 1月 総務省行政評価局政策評価官室評価監視調査官  
平成 26年 5月 同 行政評価局政策評価課専門官  
平成 27年 8月 同 行政評価局企画課課長補佐  
平成 28年 6月 同 自治行政局地域政策課地域情報政策室課長補佐  
平成 30年 10月 総務大臣政務官秘書官  
令和 元年 9月 現職

